

日本医歯薬アカデミーに参加して

志村 進

弊社は東京医科大学内田安信名誉教授のご紹介で、2002年に本アカデミー賛助会員として入会させて頂き、私自身は2011年に先輩から引継いで参加しております。

弊社はチューインガムやチョコレート、アイスクリームなどのお菓子の製造販売が主要な事業であり、お菓子作りそのものは、どちらかという鍋釜の世界です。もちろん基礎的な研究部門はありますし、私自身もそれを担当はしておりますが、学術会議の先生方の世界とは私自身は相当離れた世界で活動していると思っておりました。故に、初めての理事会には少々不安な気持ちで参加致しましたが、先生方がとてもフランクにお話をしてくださり、緊張が解けていったのを記憶しております。

実はこの会での出会いをきっかけに、数名の先生には理事会とは別な機会に学術に関するご教示を賜りました。特に、日本歯科大の小林義典先生には咀嚼の効用に関してご教示いただきました。弊社は今日、様々なお菓子を製造しておりますが、もともとはチューインガムの製造とともに成長した企業であります。チューインガムは、様々な食品の中でも、唯一の「咀嚼食品」とも言える食品と思います。その起源は西暦300年頃のマヤ文明やアステカ文明に遡ると云われており、サポデュラなどの樹木の樹液を固めたものを噛んでいたとされていますが、その頃から歯の健康や空腹感を満たすなど、噛む効用を目的に使用されてきたと考えられています。ガムの効用について弊社は今までも研究を行ってきておりますが、咀嚼の不足分をガム咀嚼で補って頂くなど、健康増進に役立っていただけるように、咀嚼の効用についてはさらなる研究を推進していきたいと考えます。

日本学術会議咬合学研究連絡委員会にて「咬合・咀嚼が創る健康長寿」に関する検討が成されて来たことと存じますが、小林先生から日本補綴歯科学会誌2003に掲載された咀嚼の効用についての総説を頂きました。2年間かけて纏められたという引用文献数370にも及ぶ壮大な総説です。社内の関係の研究者にも配布致しましたが、社内の咀嚼の効用に関するバイブルとして活用させて頂いております。また、先生からは本分野での著名な先生方をご紹介頂きました。また、瀬戸皖一先生（総合南東北病院、公益財団法人国際口腔医療財団）には何かとご配慮を頂きました。アクティブの固まりのような先生です。また、(株)ジーシー富澤実デンタルインフォメーション所長には食べる機能の低下した方への食の提案を行っているカムリエというお店を見学させて頂きました。本会に暖かく迎えて頂きました先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

日本医歯薬アカデミーは小さな会ですが、参加されている先生方はその分野で日本の学術をリードされてこられた先生方であり、企業の方も、学術の英知に学ぶ良い機会になると思います。ぜひ参加を検討されてはいかがでしょうか。

●プロフィール

志村 進

日本医歯薬アカデミー賛助会員

株式会社ロッテ 中央研究所